

ワクチンの移送にあたり留意すること（ファイザー社ワクチン）

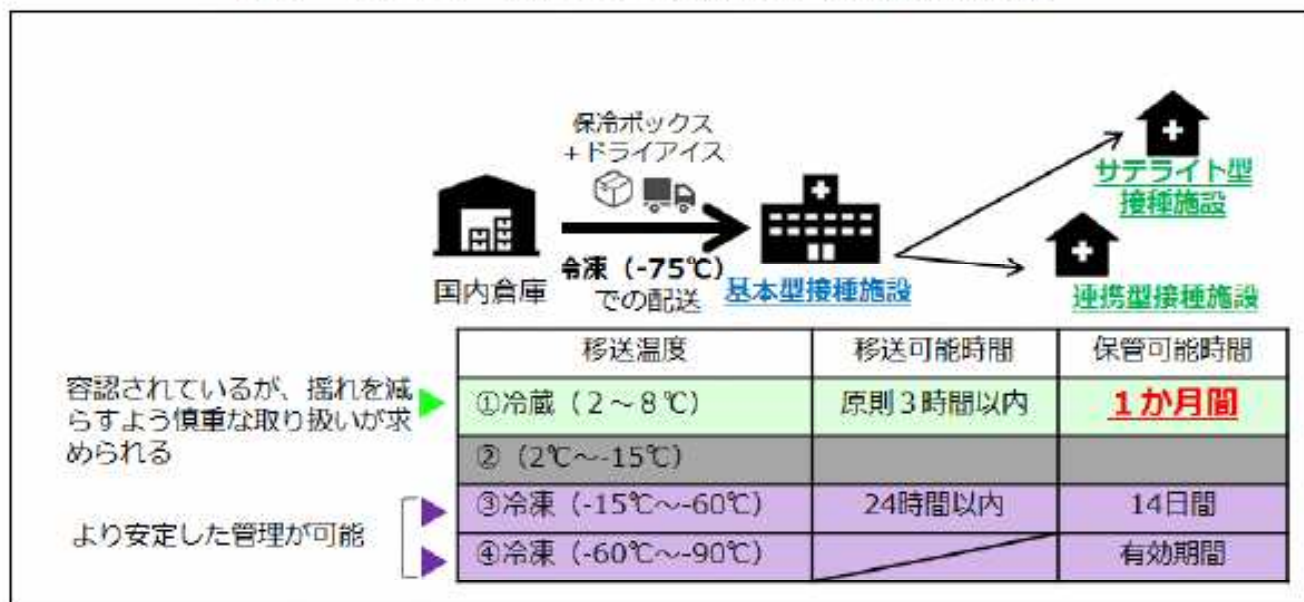
◆令和3年7月5日付事務連絡「ファイザー社ワクチン融通範囲の拡大について」

上記の事務連絡において、ファイザー社から直接ワクチンの配送を受けた基本型施設以外の医療機関※も他の医療機関※に対してワクチンの融通を行うことができる旨が示された。

※基本型接種施設、連携型/サテライト型接種施設

移送時の温度帯について

図 37 ファイザー社のワクチンの配送・保管温度の関係



再融通の場合、2つの温度帯での移送が考えられる。

1.冷蔵移送 (2~8℃)

2.冷凍移送 (-15℃~-60℃)

各温度帯の詳細は次ページ以降を参照

-60℃~-90℃帯での移送は、ファイザーから配送されてきた際の配送箱等を利用する方法がある。再融通ではこの方法での移送はあまり想定されないため留意事項は省略する。

ワクチンの移送にあたり留意すること（ファイザー社ワクチン）

各温度帯の留意事項

移送時の温度帯	留意事項
共通	<ul style="list-style-type: none">・移送に使用する保冷バッグ・バイアルホルダー等は各医療機関で用意すること。・保冷バッグの使用方法（予冷の時間等）は各メーカーの説明書に従うこと。・ワクチンを保冷バッグに移し替える作業や移送を行う際は、ワクチンの破損等に注意して慎重に取り扱うこと。・移送時のワクチンの品質管理については、医療機関が責任をもって行うこと。 <p><u>※移送中の事故等については、責任を負いかねるため、安全な移送を心がけていただくようお願いします。</u></p>
2～8℃	<ul style="list-style-type: none">・原則3時間以内に移送すること。・保冷バッグには外気温35℃で、12時間以上、2～8℃を維持できる性能が求められる。・ワクチンは超低温冷凍庫・冷凍庫・冷蔵庫から取り出したら速やかに保冷バッグに格納すること。・一度溶けたワクチンを移送する際は、再凍結しないよう注意すること。・ワクチンの性質上、振動を避け安定した状態で移送する必要があることを踏まえ、移送にあたっては、保冷バッグを揺らさないよう慎重に取り扱うこと。また、移送に自転車やバイクの利用は避けること。・移送中に保冷バッグの開閉は極力行わないこと。・バイアルはバイアルホルダーで固定すること。移送中はバイアルホルダーから飛び出さず直立して固定されている必要がある。
-60～-15℃	<ul style="list-style-type: none">・超低温冷凍庫もしくは冷凍庫から取り出した際は、速やかに移送用の冷凍庫等に移すこと。なお、いったん解凍したワクチンは、冷凍（-60℃～-15℃）で移送してはならない。・移送時間は3時間を超えてもよいが、当日中に移送すること。